

櫛葉町の住民帰還に向けた取り組み

様式2

～生活空間内の工事車両通行における安全対策～

施工場所: 双葉郡櫛葉町(被災全地区)

福島県富岡事務所河川海岸課
副主査 西元昭一郎

1. はじめに・背景など

複合被災

平成23年3月11日の東日本大震災では福島県浜通りも地震・津波の被害を受け、多くの人命・財産を失いました。
さらに福島第1原子力発電所の事故により、櫛葉町は全町避難を余儀なくされました。



2. 経緯など

住民避難と復旧・復興工事

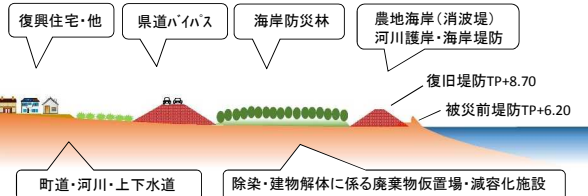
全町避難が続く中、復旧・復興工事が集中期を迎え、櫛葉町内では、至る所に工事等に必要なヤード借地が拡大し、現場への経路となる道路は工事車両によるダンプ渋滞が発生しました。
平成27年4月からの準備宿泊で722人/336世帯(7月末)の一時帰宅により、工事車両等の騒音・振動・埃・運転マナーへの苦情が寄せられるようになりました。



3. 内容

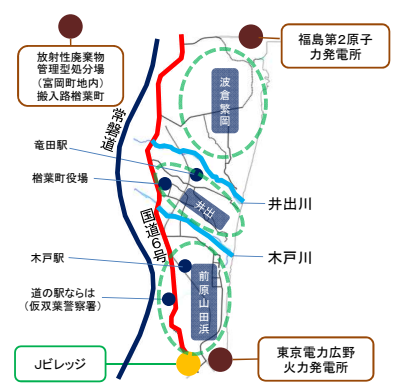
総合的に

櫛葉町の復興まちづくりでは、津波への多重防護の考えから、建設及び農地の海岸事業、防災林事業、県道事業が連続して計画されています。
同時に、町の河川・道路・上下水道等の復旧工事や環境省の廃棄物仮置場も同じ区域に施工されています。
膨大な工事車両が、住宅地内、農道等を無秩序に通行しておりました。
このため、県事業だけでなく、国・町の関係機関も交えた総合的な事業の調整、対応策の協議が不可欠となりました。



広域的に

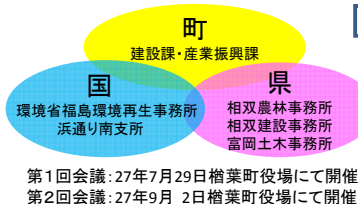
櫛葉町沿岸部は、津波被災により、井出川の橋が流失するなど、井出川と木戸川で縦方向の運搬ルートが分断されています。
このため、工事区域への進入には全ての区域で、住民の生活区域を通過しなければならず、国・県・町の事業が今後ますます増大していくことが明らかであったことから、避難指示解除に伴う住民の帰郷を控えて、住民に寄り添った町全域での安全・環境への取り組みが必要な状況となりました。



4. 進捗状況・創意工夫など

全ての発注機関が参集

櫛葉町津波被災地区復旧復興事業調整【安全・環境対策部門】会議



分かり易い指標でルート別に

大型ダンプ台数へ換算
工事資材は多種多様なため、一般には判別が困難なため、全て10tダンプの台数に換算しました。

国道からの6ルート

井出川橋が流失し、町沿岸部を縦断できるルートが無い
ため、ヤード及び工事現場への運搬ルートは、全て国道6号からとなります。しかし国道6号の交通渋滞も激しく、信号機・右折レーンがある交差点の6箇所に制約されています



四半期毎に

国・県・町、それぞれに施工ピークが異なり、正確な事業調整には時系列での工事通行量の把握が必要であることから、全ての復旧復興工事の工期・施工工程を調査し、問題発生の“箇所”と“時期”を抽出しました。

四半期台数 ÷ 3月 ÷ 23日/月 = 日当たり台数

ルート	東電2Fルートで 日平均511台				上繁岡ルートで 日平均349台			
	H27 4~6	7~9	10~12	1~3	H28 4~6	7~9	10~12	
東電2F前	292	35263	9901	9901	7555			
上繁岡	2029	4149	9328	17089	24089	18914		
櫛葉中	551	4103	15489	15489	14879	12661		
木戸川北	2299	7599	7381	326	326	1676		
小橋	1794	6744	9724	8389	989	8389		
Jリッジ	1308	1308	17869	15193	2552	6663		
Jリッジルートで 日平均259台								
櫛葉中ルートで 日平均224台								

ルートを共有する地区単位で対策を協議

問題点	井出川北エリア=波倉・繁岡	木戸川北エリア=井出	木戸川南エリア=前原・山田浜
	海岸・河川・防災林・県道工事が集中する中で、減容化施設・カソーラー事業・産業再生エリア造成・廃棄物仮置場が着工される	海岸・河川・防災林・県道2路線の工事が集中し、地区内に仮置ヤードも多数ある中で、竜田駅東地区開発事業が着工される	廃棄物仮置場が散在し、河川・海岸・町上下水道・防災林工事が集中する中で、橋梁架替が着工される
課題	波倉地区は幅員約4mの単線しかなく繁岡地区は起伏と、いびつな幅員で、沿線に住宅地が散在	櫛葉中前・木戸川橋北の2ルートあるが起伏と、いびつな幅員で、役場・学校・駅のある市街地を通る	Jリッジ・小橋の2ルートあるが沿岸部は津波被災で道路未復旧背後地に学校・駅・集落が散在
対策	地区全体で一方通行(時計回り)待避所設置・カーブミラー設置一時停止・注意看板の設置	学校～駅区間の通行調整天神岬公園前の一方通行一時停止・注意看板の設置	沿岸部にて一方通行(時計回り)待避所設置、一時停止・注意看板の設置

水平展開

- 町民への広報
櫛葉町広報紙11月号2ページ掲載
- まちづくり連携
カソーラー・竜田駅東地区開発・復興住宅・医療施設・学校再開
- データの随時更新
概ね3ヶ月毎に情報データを更新
- 新たな参画
新たに双葉警察署が参画
- 施工業者間の連携
受注者安全協議会の発足へ

5. 実行後の効果と今後の課題

「安全・環境対策部門」会議により、単なる住民苦情やトラブルの情報だけでなく、お互いの現場情報の伝達・共有化が進展し、国・県・町、事業間の垣根が取り除かれ、地域住民に寄り添う、きめ細やかな対策が可能になりました。
しかし、工事資材(生コン・骨材)の搬入に係る新規業者の入れ替わりが激しく、今回の取り組み趣旨が浸透しきれていないケースが時折、確認されており関係者末端までの安全教育が課題となっています。
櫛葉町の住民帰還は始まったばかりであり(年末時点で4.5%)、同時に櫛葉町の復旧・復興工事集中期に入ることから、発注機関及び受注者間相互において、緊張感を保った連携体制を維持・強化し、最後まで継続していくことが必要です。

6. 終わりに

復興スピードの加速化と帰郷住民の安全・安心の確保を両立していくためには、相互の理解と協力が欠かせません。
地域住民の声に耳を傾けながら、住民に寄り添った復旧・復興の推進に努めていきたいと思います。